

日刊 警城時報

石城郡警務署... 印刷所... 電話... 代金... 印刷所... 電話... 代金...

激浪押ししよせ

發動機船沈没

第一稻荷丸も危険に瀕す 四倉町で警鐘を打つ

石城郡四倉町新町菅波末吉所... 有第一稻荷丸及び同町鈴木助次...

慰問金

處分方法協議

半額は保留

平町役場が主体となり平町各種...

濱三郡の誇りである

理想的大宴會場

工費三萬余圓を投じた 住吉屋本店の料理部

平町字紺屋町旅館兼料理店住吉敷の大廣間...

課長免官

平町警署直税課長澁谷嘉傳...

貧困児童救済

六十九名に防寒具を與ふ

平町役場では歳末に際し小學校...

警銀債權者會

銀行債權者會は二十六日午前九...

第三校の貯金

五千九百餘圓

誘拐した少女に 窃盜品を賣らせ

石城郡小名濱町地内を二十四日...

年末救済

平町警署同調會では年末に際し...

歳末の大賣出し

平町の商店一齊に開始

平町の歳末商賣戦線は七五三の人の...

飯野村の男

鐵道自殺者は

雑踏と人波の中で

奏でる歳末コーラス

年の瀬は遠慮なく押迫る...

謹告

恒例により本號を以て本年最終號とし...

警城時報社

讀者各位

鐵道自殺者は

も造りの荷を山ほど積んで來る...

少年が面白半分 二ヶ所に放火す

石城郡磐崎村大字小野田川瀬次郎(十假名)は二十五日午後五時頃六時頃の二回に日附新長屋に放火したのを発見大事に至らず消し止めたが、右少年を取今回の政變により何れも賠償を調べた面白半分放火したと言つてゐるので平署では實父を呼び出し嚴重説諭の上釋放した

餓死を待つ

一家五名
石城郡地方の各町村では滿洲出征兵士慰問金品の募集に全力を挙げ相當の實績を収め夫れに發送配給の手續をとつたが、更に青森、北海道地方の飢饉線上の彷徨する凶作被害民のため義捐金を贈るべく各小學校當局では兒童の自發的募金を募り各種團體とも活動中であるが、二十四日北海道函館市外駒木町無職青木まつ(四九)が平警察署に對し願越たところによると

まつ一家専主新吉(四五)が永の中風症で働らけず三人の幼兒を加へた五人の家族は極端な凶作のため一粒の米すら得ることが出来ず家財道具を全部賣り盡し酷寒零下十度の凍てつく様な床板の上の糠子五人は延にくるまつて飲まず食はず全く餓死を待つばかりの状態にあるので平町町某(長女さく(一七)に幾分なり送金する様だんだんが何んの返事さへないので途方に暮れてゐると云氣の毒の事情を懇へて来たので平署では同情し大きくを呼出し送金するやう話を頼めた。

平町の物價 値下げは九品

平町役場の調査による諸物價は示し十一月二十日當時に比較し燃料のみは一分二厘の値下りを見たが、食料品は一分四厘、衣料及び身廻り品は三分六厘、建築材料は三分二厘、雜品九厘、値上げを示し調査品九十五品の總體に見れば騰貴十六、下落九保合七〇である。

新年繪はかき クリスマスカード
博文館常用日記其他
かるた トランプ 各種
例年の通り豊富に取揃へました。

御贈答用として
商品券
マルトモ 食 堂 共通
マルトモ運動具店
御利用願います

マルトモ
柴田書店
平町四丁目
電話(二三四一八五)番
(五九七一三)

毒夜	腸胃
皮膚病	腸胃病
婦人病	胃腸病
淋病	腸胃病
専門	専門
院醫科	院醫科
(七〇一話電)	(七〇一話電)

平五 山野邊藥局

花柳病科 専門

木村外科醫院

平町六丁目橋際
電話三〇九番

營業所開設

倍舊の御引立相仰ぎ度懇願候

白馬の雪

芳醇銘酒

平町二丁目一
長の口本家 松本徳一
電話(五四六)營業所
(二八五)本店

アンカ「コタツ」に徳用な

木炭 たどん

平町古鍛冶町杉ノ澤
製造元 鈴木炭團製造所
平町二丁目(警察署通り)
御小賣所 魚清水卸部
電話四六七番
尙氷の御注文電話四六七番へ

安齊外科醫院

一般外科 内臓外科
性病科 X光線科

入院隨意(自炊の便あり)
元赤心堂病院跡
電話四七五

學生靴 特賣

耐久無比 新製品

▲ボツクス革 短靴 五圓
▲同 編上靴 六圓
不安心なる機械靴より………
新形と耐久本形位の優秀材料たる
大塚自製靴を………

◎伸士靴 最新形 大安價
平町田町
大塚支店製靴部
電話七七番
靴の御用は大塚へ

石炭經濟、理想的ストローブ

ソレハ石炭商ノ立場ヨリ
多年研究試驗ノ結果

◎フクロクストーブ
ニ優ルモノナシ

フクロクストーブ

◎ストローブ御買入ノ際ハ
是非御相談下サイ
カタログ持參御説明申シ上マス

電話二三三七番
阿部石炭商店